

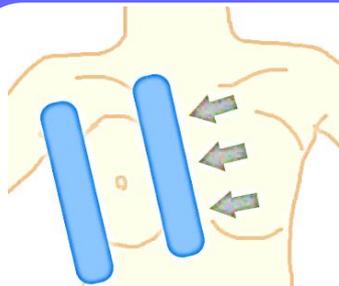
## 放射線科だより ～乳がん検診を受けよう！～

日本人女性の\*部位別がん罹患率 1位は乳がんであり、近年増加の一途をたどっています。しかし早期に発見し適切な治療を行えば良好な経過が期待できるため、日々のセルフチェックに加え 30歳からの乳がん検診の受診をお勧めします。また 40歳以上で対象の方は、広島市から送付される乳がん検診通知書を利用して頂くことも可能です。今回は乳がん検診のひとつであるマンモグラフィの撮影法について紹介します。

\*国立がん研究センターがん情報サービス 部位別がん罹患率 2017年集計より引用

## ○マンモグラフィ検査

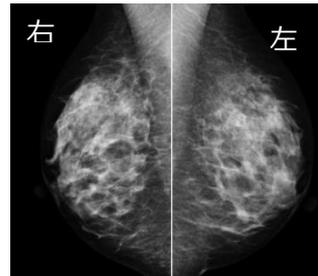
市の検診通知書を利用する場合は年齢によって撮影方向数が異なります



MLO 撮影

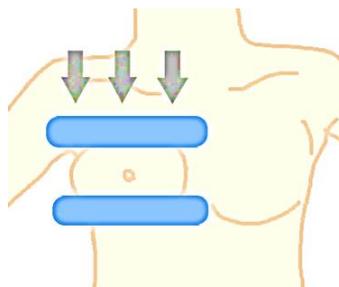
乳房をななめ上から  
伸ばしていきます

撮影すると・・・



乳腺全体が最も広く見える撮影法です

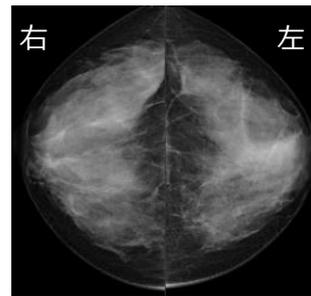
50歳以上  
1方向  
(MLOのみ)



CC 撮影

乳房を真上から  
広げていきます

撮影すると・・・



MLOのみでは足りないところを観察します

40代  
2方向  
(MLO+CC)

## ○そのほかの検査について

小さな石灰化病変に強いマンモグラフィですが、実はマンモグラフィ単独では 20~30%の乳がんを発見できないため（特に\*デンスブレスト）ご希望される方には視触診や超音波(エコー)検査を実施しています。

検診で精密検査を勧められた場合は、超音波検査やMRI検査、細胞診、針生検などの詳しい検査を行います。

\*デンスブレスト：高濃度乳腺のこと。マンモグラフィで乳腺が白く描出されるため腫瘍病変との判別が難しくなる。

## ★デジタルマンモグラフィ装置が導入されました★

2020年2月に新たに導入されました。従来の装置と比較し、

画質の向上、被ばくの低減、検査時間の短縮が可能となりました。



診療放射線技師

検査に対する不安を取り除くため、受診される方とのコミュニケーションを大切にしています。  
ご不明な点はお気軽に医師・スタッフへご相談ください！  
妊娠中、豊胸術後の方は撮影できない場合がございます。  
あらかじめお知らせください。



CANON 社製 Pe·ru·ru DISITAL